

住み慣れた地域で 認知症とともに生きる



「認知症なのかな…」

「もしも、親や身近な人、または自分自身が認知症になったらどうしよう」

そんな心配や不安を抱いたことはありませんか。

9月21日は、世界アルツハイマーデーと制定されており、世界各地で認知症に関する啓発活動が実施されています。

認知症は高齢者だけでなく、若年性認知症もあり、誰にでも起こりうる脳の病気です。

今回の特集で、認知症について考えてみませんか。

認知症とは

脳の神経細胞の働きが徐々に低下し、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、社会生活に支障をきたしている状態です。

認知症または認知症の疑いがある高齢者の状況

(R5.7.31時点)

国は2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると予測しています。

現在、大崎町は町民の約5人に2人が65歳以上の高齢者で、高齢化率が高い状況です。認知症は年齢が高くなるほど発症しやすくなります。65歳以上の高齢者のうち、介護認定を受けた人で認知症または認知症の疑いがある高齢者は、高齢者全体の12%、約8人に1人の割合です。

大崎町の人口	高齢者人口 (65歳以上)	認知症または認知症の疑いがある高齢者*	
		人数	割合
12,130人	4,986人	592人	約11.9%

※認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上の方

?

認知症と物忘れの違い

認知症の記憶障害

- ・体験そのものを忘れる
- ・ヒントを与えられても思い出せない
- ・時間や場所、季節などの見当がつかない
- ・日常生活に支障がある

加齢による物忘れ

- ・体験の一部を忘れる
- ・ヒントを与えられると思い出せる
- ・時間や場所、季節などの見当がつく
- ・日常生活に支障はない

認知症の相談がしたいとき

認知症初期集中支援チーム

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の人やその家族に早期に関わっていく活動をおこなっています。認知症サポート医・作業療法士、社会福祉士・包括支援センター職員・保健師などがチームメンバーです。訪問・チーム会議をとおして、医療や介護のサービスにつなげる支援などの活動をしています。

大崎町包括支援センター

認知症や介護の相談がしたいとき、気軽にご連絡ください。センターは役場の中にあり、介護支援専門員、看護師などが相談に応じます。専門職が連携して、介護や医療福祉などさまざまな面から支援します。

ひとりで悩まずに、 悩みを話してみませんか

認知症家族の集い

認知症の人やその家族が気軽に